エン・ゲヴ遺跡出土のヘレニズム土器

——2009年度再発掘H地区資料を中心に——

Hellenistic Pottery from Area H of ‘En Gev Found
in 2009 during the Resumed Excavation牧 野 久 実^{*}
MAKINO Kumi

ABSTRACT In 2009 Keio University resumed excavations at ‘En Gev for a period of three years. This paper reports on the Hellenistic pottery discovered at Area H in 2009.

A Japanese team and Tel Aviv University excavated at ‘En Gev for eight seasons from 1990 to 2004 (final report in Japanese: Tsukimoto et al., 2009; English version forthcoming). These excavations revealed Iron Age strata (St. V and St. IV), Persian-period pits (St. III), a Hellenistic stratum (St. II), and Late Hellenistic structures and Roman lime kilns (St. I). Among those, the Hellenistic stratum (St. II) actually has more than one phase, though it is sometimes difficult to identify them because of erosion by modern activities and the reusing of buildings in the Hellenistic periods. Several analyses were done to identify the stratum of some of the rooms discovered and to identify the pottery shards from them (Makino’s paper in the forthcoming English report). The resumed excavation by Keio University shed light on the cultural transition from the late Iron Age to the Hellenistic period at ‘En Gev more precisely.

The pottery shards found during the resumed excavation in Area H show that St. 1 is Late Hellenistic. Also, early to late Hellenistic transition pottery was found in St. 2a, and pottery shards of the Persian to Early Hellenistic periods were found in St. 3a and St. 2b. It is possible they are mixed due to later constructions. Shards of the 1st century BC onward are rare. Thus, St. 1 seems to end in the middle of the Late Hellenistic period.

I. はじめに

エン・ゲヴ(‘En Gev)遺跡はキネレット湖東岸のキブツ・エン・ゲヴの敷地内に立地するテルである(図1, 2)。本稿は2009年から3夏の予定で慶応義塾大学が行っている発掘調査成果のうち、上層、すなわちヘレニズム時代を中心とする土器についての調査結果をまとめたものである。⁽¹⁾

エン・ゲヴ遺跡では1961年にマザール(B. Mazar)らが短期の発掘を(Mazar *et al.*

^{*} 鎌倉女子大学教育学部准教授

Associate Professor, Faculty of Education, Kamakura Women’s University

1964), また1990年から2004年にかけて日本聖書考古学発掘調査団が8夏の発掘調査を(月本他 2009)行い、鉄器時代(第Ⅴ層, 第Ⅳ層), ペルシア時代(第Ⅲ層), ヘレニズム時代(第Ⅱ層), 後期ヘレニズム時代とローマ時代(第Ⅰ層)という5つの層が明らかにされた。ペルシア～ヘレニズム時代については建物の再利用や現代の建築活動によって攪乱が大きい, 一部で複数の床面が発見されている。また, 一部の部屋においてヘレニズム時代の遺物を上層と下層に分ける試みもなされている(Makino forthcoming)。

こうした中, 今回行なわれた再発掘, 特に標高が最も高い地点に設定されたH地区では大きく3つの層が確認された(杉本, 間舎 2010)。第Ⅰ層では塔のような大型建築物の一部とそれにとりつく床が発見されており, 相伴土器からヘレニズム時代とされている。また時期が異なる壁も見られるため, 少なくとも2つのフェイズが含まれると考えられている(上掲, 102)。第Ⅰ層の壁の下からは分厚い土砂の堆積が見られたが, 第Ⅲa層のピット群までに明確な遺構や床は存在せず, 土の色や質から細分されている。従って, 第Ⅱ層と第Ⅲa層についてはそもそも層位として区別することに無理があるのかもしれない(杉本, 間舎 2011参照)。第Ⅱ層では約90cmの覆土層の下で上質の漆喰敷の床が発見されており, その上層(L536, L534の一部)から出土した土器から鉄器時代ⅡA期後半(前9世紀頃)と考えられている。この漆喰の床は後代のピットに部分的に破壊されているため, 第Ⅱ層から出土しているヘレニズム時代の土器は後代より混入した可能性も否めない。第Ⅲ層では壁とタブン(炉)が検出されており, タブンの周囲から採集された炭化物の年代は前12～前11世紀とされている(杉本, 間舎 2010, 108)。第Ⅲ層の上層(第Ⅲa層)では一部ペルシア～ヘレニズム時代の土器が出土しているが, これも第Ⅱ層同様に後代より混入したものかもしれない。

本稿ではこのことを踏まえたうえで, 発掘当初に区分された第Ⅰ層～第Ⅲa層から出土したペルシア～ヘレニズム時代の土器型式について事実関係の報告と若干の考察を述べる。第Ⅲb層のローカス514(埋土)のうち鉄器時代と判断されるバスケット5038, 同じく第Ⅲa1層ローカス535(ピット)のバスケット5076は本稿では割愛した。また, 第Ⅲa2層のローカス528(埋土: 特にバスケット5090や5109)や第Ⅲa2層のローカス536と534の一部(H地区漆喰の床上層)は基本的に鉄器時代と考えられるが混在するペルシア～ヘレニズム時代の土器片については本稿の報告に含めることとする。

II. エン・ゲヴ遺跡出土のヘレニズム土器

1. 鉢・皿

鉢・皿としては口縁部が内湾する小鉢, 口縁部がやや外反する小鉢, 大鉢, フィッシュ・

プレート (Fish plate), かつてメガリアン・ボール (Megarian bowl) と呼ばれた型取りの精製土器が挙げられる。

i) 鉢 (図3)

口縁部が内湾する小鉢 (IB) はヘレニズム時代のパレスティナで一般的な日常容器の1つである。高さ4~5cm, 口径12~13cm, 底部の直径は口径のおよそ3分の1で約4~5cmである。また, この1.5倍ほどの大きなタイプもある。胴部の断面は曲線を描くタイプ (IB4) とV字状を描くタイプ (IB3) がある。底部は通常リング状だが, 内部の中央が僅かに隆起するもの (IB2) やV字型で平底のものもある (IB1)。胎土は鈍いオレンジ色から明るく黄色みがかかったオレンジ色で, 表面には灰色がかかった黄土色から暗い赤茶色の塗料がかかる。色合いは均一ではなく, 大雑把にまるで塗料を適当にふりかけたようにむらがあるため, スパッター・ペインテッド (spatter painted) と呼ばれる場合もある (Berlin 1997, 7)。轆轤で成形し焼成は固い。

この小鉢はパレスティナやその他のヘレニズム世界に広く見られるが, パレスティナでは前4世紀後半から出現し始め, 前2世紀末になると次第に見られなくなり, 前1世紀では稀となる。アテネでこのタイプがほとんど見られないことから生産地は東地中海世界のどこかであろうと考えられており, 胎土分析によってキプロス東部が産地で前220年~前100年頃にかけて作られたという結果も得られている (Gunneweg *et al.* 1983)。また, ジョーンズ (F.F. Jones) はアナトリア南東部のタルスス (Tarsus) からの出土例から, 前期のものはより深く中期になるとより浅く小さくなり口縁部の内湾する角度もよりシャープになることを指摘し (Jones 1950), フィッシャー (M. Fisher) も同様にテル・ミハル (Tel Michal) における出土状況から前期の曲線タイプが後期のV字状タイプへと変化したことを指摘している (Fisher 1989)。

エン・ゲヴのH地区では表土, およびI層からIIIa2層までの全ての層からIBが出土している (1-13)。いずれも完形ではなく口縁部の断片であるが, 胴部へつながる様子から恐らく大半がV字状タイプで曲線タイプは2点 (8,9: IIa層) のみと考えられる。また, やや厚手のもの (11: IIb層, 13: IIIa2層), 浅鉢もしくは皿 (SB: 14: IIb層), 口縁部が朝顔のように外側へ広がるタイプ (OB: 15: IIb層), 口縁部の先端が平らなもの (FB: 16,17: IIb層) も見られる。

ii) フィッシュ・プレート (図4)

ヘレニズム時代に典型的な土器の1つである。直径は約15cm~20cmで, 口縁部は外に張り出し, その先端は水平もしくは下方へ伸びる。底部はリング状である。また, 内

側中央部には僅かに窪みが見られるが、その直径は底部の直径よりも小さい。良質な粘土を用いて固く焼成されている。内外共に表面には黒色、褐色、赤褐色などの釉薬が施される。

フィッシュ・プレート（魚の絵付きタイプ）の起源は前5世紀～前4世紀にアテネやイタリア南部で作られた魚の絵付きタイプに遡る。パレスティナでは絵付きの事例は報告されていないが、内側中央部の窪みは魚料理に添えるソース用であったと考えられている。フィッシュ・プレートのもともとの機能がヘレニズム時代にまで同様に受け継がれていたかどうかは不明であるが、少なくとも形態の類似性は継続している。

フィッシュ・プレートはパレスティナでは前400年頃から現われ始め、前2世紀末頃まで出土する。ペルシア時代までさかのぼる型式としては胴部が厚く直線的で口縁部が下方へ下がるものがある（FP5）。その後、前期ヘレニズム時代では大きめで中央の窪みの回りに突帯が巡るもの（FP2）や口縁部に厚みがあり水平に突き出すもの（FP3）が出現する。後期ヘレニズム時代になると胴部が深く丸みを帯びるもの（FP4）や突帯付きの口縁部が水平に突き出し、平底を有するもの（FP1）が出現する。FP4は中央の窪みを伴わないこともあるが、ドール（Dor）では口縁部の外反からフィッシュ・プレートの特徴を共有する鉢（TypeBL5b）として分類されている（Guz-Zilberstein 1995）。これはヘレニズム時代のパレスティナで一般的に見られる地元産で、サマリア（Samaria）（前2世紀）やテル・ミハル（前期ヘレニズム時代とされるが、共伴するランプから少し遅い年代と考えられる）などでも出土しているが、前100年頃にはほとんど見られなくなる。なおヘレニズム時代で他のパレスティナの遺跡とは異なる土器がしばしば見られるテル・アナファでは胴部と口縁部の境目に溝状の模様が巡るものも出土している（FP6）（Slane, Pl. 1, FW1-4）。

エン・ゲヴH地区では主に口縁部の断片が出土している（1-10: IIa～IIIa2層）。また、底部のみの断片も出土しているが（11-15: IIa層, IIIa1層, IIIa2層）平底（FP1）は見つからない。このうち、内面の突帯の状況からFP2（13: IIa層, 14: IIIa1層, 15: IIIa2層）、下方に垂直に延びる様子からFP5（6: IIb層）、口縁部の張り出し方からFP2もしくはFP4と思われるもの（1,2,4: IIa層, 5: IIb層, 7: IIIa1層, 8: IIIa2層）、中央の窪みがやや浅いFP4と思われるもの（11, 12: IIa層）が出土している。また、口縁部の先端に厚みがあり、どちらかというとV字状の胴部を有するものが出土しているが（9,10: IIIa2層）ドールではFP4とされている（Stern 1995, 351, Fig. 6, 4-9）。

iii) メガリアン・ボール（図5）

かつてはギリシアのアッティカにある古代都市、メガラ（Μέγαρα）で生産されたもの

と考えられたためメガリアン・ボールという名前と呼ばれていたが、その後の研究での解釈は誤りであるとされたため、現在では単に型取りの碗などと呼ばれる (Rotroff 1982; Edwards 1975)。ただ、日本ではまだメガリアン・ボールという呼び名になじみがあるため、本稿ではこの呼び名を用いる。この小鉢は口縁部の直径が約 10～13 cm、高さ約 5～10 cm、丸底でわずかにリング状の底部が見られる。口縁部はやや外反する。良質の粘土を薄く堅く焼成し、口縁部の先端を除く外面全体に型取りで植物などの模様を施し、その上にオレンジ、灰黒色、赤色のスリップをかけたもので、小さな断片でもすぐにそれとわかるほど特徴的である。

胎土や形態などからアッティカ産、小アジア沿岸地帯のギリシア植民地を中心とするイオニア産、その他の東地中海地域産に大きく分類することができる。アッティカ産とイオニア産は様式によって比較的判別しやすいが、その他の東地中海地域産は容易ではない。アッティカ産は赤褐色の胎土に灰色から黒色の艶のあるスリップを特徴とする。前240～前220年頃に生産されたが (Rotroff 1982, 10)、どちらかというとき貴重品でどの遺跡からも少数しか出土しない。イオニア産は内湾する口縁部と艶消しのスリップ、雲母を含む粘土を特徴とする。スリップの色は灰黒色から赤褐色である。ローモニエ (A. Laumonier) によるとイオニア産は生産工房の活動期間より前166年～前69年というごく限られた期間に生産されたとされる (Laumonier 1977)。東地中海地域で生産されたもののうち東部テラ・シギラタ (Eastern Terra Sigillata: 略して ETS) と称するものがある。テラ・シギラタとはエーゲ海の島々に産出する赤褐色粘土、およびこの粘土を用いて焼いた土器の呼び名である。黄褐色の生地に明赤色のスリップがかかるものは ESA (Eastern Terra Sigillata A) と呼ばれるが、これらについてはかつてベルガモン産であるとか (Jones 1950)、シリア産であるといったといった説 (Waage 1934) も出された。しかし、1980年代に Gunneweg らが胎土分析を行い (Gunneweg *et al.* 1983)、キプロス東部を産地とする ESA (ETS-I)、小アジアの南岸地域を産地とする ESA (ETS-II) が存在することを示した。

なお、初期の文様はもっぱら植物をモチーフとしたものだが、前2世紀半ば以後は植物の顎のような長い花びら模様が、また前1世紀以後は人物像が表現されるようになった (Lapp 1968, 66)。碗全体を水平にいくつかゾーン分けをしたうえで、それぞれのゾーン毎に異なる文様がほどこされる。エン・ゲヴではこのうちの胴部上下とメダリオン・ゾーン (Medallion zone) の上部の断片が出土している。底部のメダリオンそのものは出土していない。

エン・ゲヴH地区からは数点の断片が出土している。それらは、卵鎌文様 (1: IIb 層) や棕櫚の葉 (2, 3: IIb 層) をモチーフとしたものである。スリップや胎土の色合いから

(外面が黒、内面が赤、胎土が明黄橙色) 1 はアッティカ産の可能性も考えられるが、断片が小さく判断は難しい。他の 2 点 (内外面共に暗赤茶色、胎土は暗橙色) は ETS と考えられる。なお、エン・ゲヴの出土例は今回だけでなく以前の発掘においても人物像をモチーフとしたものは全く出土していないことを追記しておきたい。

2. 調理器

調理器としてはモルタリア (Mortaria)、クッキング・ポット (Cooking pot)、キャセロール (Casserole) がある。

i) モルタリア (図 5)

モルタリアは食材を搗り潰したり練り混ぜたりするときに用いた口径およそ 30 cm の厚手の底部付きの擂鉢である。石製のモルタルも存在したが、こちらは捏ね鉢として使い分けたようだ。

モルタリアの伝統はペルシア時代よりはじまる。いずれも厚手の胴部と外側へ D 字形に膨らんだ厚みのある口縁部としっかりした底部を持つ均一な形状であるため (MOR1)、シリア北部かアナトリアの南西部で生産されたものがパレスティナへ輸入されたと考えられている (Blakely & Bennett 1989)。MOR1 は少なくとも前期ヘレニズム時代にまで継続するが、その後の形態はペルシア時代ほど画一性がなく、特に口縁部の形状が多様である。このため、パレスティナ内部で生産されたと考えられている。形態としては口縁部が厚みのあるもの (MOR2) と口縁部の先端が丸みを帯びるもの (MOR3) に分けることができる。底部はリング状、凹状、平底と多様である。また、口縁部の先端に指で注口をつけたものもある (MOR4)。

マレシャ (Maresha)、アラク・エル・エミル ('Araq el-Emir)、ベテル (Bethel)、テル・エル・フル (Tel el-Ful) といった後期ヘレニズム時代の遺跡の多くではモルタリアは報告されていない。従って、モルタリアはペルシア時代から前期ヘレニズム時代を中心に用いられたと考えられる。なお、テル・アナファでは後期ヘレニズム時代やローマ時代において他に類例の無いアナファ独特の形態を持つモルタリアの出土例が報告されている。

エン・ゲヴ H 地区では、MOR2 (1: 表土, 2: IIa 層, 3: IIb 層, 4: IIIa1 層) と MOR3 (5: IIIa2 層) が出土している。また、胎土が異なるが、ペルシア時代のモルタリアの底部 (MOR1, もしくは器台) のような断片 (6: IIa 層) も見られる。

ii) クッキング・ポット (図6)

クッキング・ポットは胴部が丸く膨らみ、口縁部と肩部を結ぶ把手が2つ付く。頸部は胴部からまっすぐ立ち上がる。薄く固く焼成された土器である。口縁部に蓋を支えるための工夫が無い場合、ここでは次項のキャセロールと区別するために蓋無の調理器として報告するが、実際には上部に蓋のようなものを乗せたりして用いることもあったと考えられる。

胴部が丸みを帯びたクッキング・ポットの伝統は鉄器時代Ⅱ期（前6世紀）に遡る。この時期、ベト・シェメシュ (Beit Shemesh) やベト・ミルシム (Tel Beit Mirsim), エン・ゲディ ('En Gedi) といったパレスティナ南部の遺跡において、胴部の最大直径と深さがほぼ同じ、または胴部の最大直径に対して深さが上回るタイプが初めて現れた (Amiran, 231, Pl. 76)。この新たなクッキング・ポットはその後、ペルシア時代を通じてやや形を変えながらヘレニズム時代で一般的となった。ペルシア時代のものは胴部がより丸みを帯びるのに対し、ヘレニズム時代のものは胴部中ほどに微細な屈曲部分を有する場合がある。また、ヘレニズム時代のものは胴部から頸部への立ち上がり方がより鋭く、ペルシア時代のものはよりなだらかである。焼成もヘレニズム時代の方がより良好であるが、薄いため壊れやすい。頸部と胴部を一体で作成したものと、頸部と胴部を別々に轆轤で作成したものがあったが、出土断片だけでは必ずしも判断できない。ヘレニズム時代のクッキング・ポットは製造法他に、主に口縁部の形状から口縁部の先端が丸みを帯びるもの (CP1)、口縁部の先端が平らに押しつぶされたもの (CP2)、口縁部の断面が三角形を呈するもの (CP3)、頸部の内側にわずかな窪みが見られるもの (CP4) に分類できる。

エン・ゲヴH地区では、CP1 (1: I層, 2,3: IIa層), CP2 (7: IIb層, 8: IIIa1層, 9: IIIa2層), CP3 (4: I層, 5, 6: IIb層) が出土している。頸部の内側にわずかな窪みが見られるものは出土していない。

iii) キャセロール (図6)

キャセロールはクッキング・ポットと比べて全体に浅く幅広で、蓋をかぶせるための工夫が頸部内側や頸部と胴部の境目に施されている。ギリシア世界では前6世紀に起源を遡り、前5世紀後半以後にギリシア社会や東地中海の島々や沿岸地域で一般的となる。パレスティナでは前200年頃に初めて出現し、後期ヘレニズム時代に一般的となった。口縁部と胴部の継ぎ目付近を曲げ口縁部を逆八の字形に外反させたものや (CPL1)、この部分の内側が僅かに盛り上がるもの (CPL2) がある。

エン・ゲヴH地区では、CPL1 (1: I層), CP2? (2: IIa層), そして蓋と思われる断

片 (3: IIa 層, 4: IIb 層) が出土している。

3. 液体に用いる容器

液体用の容器としては、壺、水差し、小水差し、ワインやガラムを保存・運搬するためのアンフォラ、香油などの貴重な油用の容器と思われる小型の瓶がある。また、酒を水で割るためのクラテルもここで報告する。

i) 壺 (図7)

ヘレニズム時代の壺はペルシア時代から継続して見られる。それらは胴部が袋形もしくはシリンダー形で、短い頸部と外反するやや厚みのある口縁部を有するもの (JR1～3) と頸部が無く、肩部と胴部が直線状に結ばれるもの (JR4) である。

エン・ゲヴでは口縁部や頸部の断片しか出土していないため、特に口縁部の断面の形状から以下のように細分する。すなわち外面下部がやや隆起するもの (JR1)、口縁部の断面の形状が全体的に丸みを帯び内側上部がやや隆起するもの (JR2)、断面が長方形を呈するもの (JR3) である。JR1 は前期ヘレニズム時代の中でも特に早い時期に見られ (シェケム (Shechem) ではIV層)、JR2 は前期ヘレニズム時代の後半、すなわち前3世紀 (シェケムのIV層～III層)、JR3 は前3世紀後半で現われ (シェケムのIIIA層) 前2世紀前半で形状がより顕著なものとなる (シェケムのIIIA～II層)。JR4 はドルでは前4世紀末～3世紀に出土している (Guz-Zilberstein, 312, Type JR 3)。

H地区からはJR1 (16, 17: IIb層, 18: IIIa1層, 19: IIIa2層)、JR2 (1: I層, 2～11: IIa層)、JR3 (12, 13: IIa層, 14, 15: IIb層) が見られる。

ii) 水差し (図8)

地元産の水差しでヘレニズム時代に一般的なのは薄手で、逆八の字形に開いた口、口径よりもやや狭い頸部、丸く膨らんだ胴部、僅かに凹んだ底部やリング状の底部を有するものである (JG8)。通常は口縁部から肩部にかけて把手を1つ有する。注口は無いが、逆八の字に開いた口が液体を注ぐのに適している。後期ヘレニズム時代になると表面に浅く横撫での形跡が見られるようになる。ドル、シクモナ (Shiqmona)、ケイサン (Keisan)、アポロニア (Apollonia) で前2世紀の層から出土している。底部の形状は前3世紀ではやや厚手で、前2世紀になると薄くなる。シェケムではII～I層 (前2世紀全体) で極端に薄くなる事例が報告されている。

また、ペルシア時代から連続するもので、丸く膨らんだ胴部がわずかな尖底部に向かうにつれて幅広になり全体として袋形のものがあ (JG1-7)。口縁部から肩部上部にか

けてループ状の把手を1つ有する。ドールではヘレニズム時代全般で出土しているが (Guz-Zilberstein, 308), パレスティナ沿岸部では前5世紀末から前4世紀を中心に広く見られる (Stern 1982, 117)。口縁部はわずかに外反する。これらは主に口縁部全体の形状や口縁部の断面において特に際立つ隆起部がどこにあるのかで細分される。内面上部がやや隆起するもの (JG1), 外面下部がやや隆起するもの (JG2), 口縁部全体が丸みを帯び、特に隆起部を持たないもの (JG3), 上部先端に隆起部が見られるもの (JR4), 断面の形状が四角いもの (JG5) がある。また、表面に横方向へ筋模様が入ったやや長い頸部を有するものや (JG6), 同じ形状で口縁部に蓋用の仕組みが見られるもの (JG7) がある。これらのうち、JR1とJR2は前3世紀全体 (前期ヘレニズム時代: シェケムではIV層と恐らくⅢ層) に典型的とされる。JG3~5は前3世紀後半 (前期ヘレニズム時代: シェケムではⅢ層), JG6は前3世紀末~前2世紀前半 (前期から後期への移行期: シェケムでは主にⅢA層とⅡ層), JG7は前3世紀末~前2世紀末 (前期~後期: シェケムではⅢA層~Ⅰ層) とされる。

また、直径約3~5cmと通常の水差しよりも狭くてやや長い頸部とわずかに外反する口縁部、2つの把手、丸く膨らんだ胴部を有するフラスコ (TJG1) も見られる。さらに、ウエスト・スロープ (West Slope) 様式を用いた前3世紀~前2世紀の小型アンフォラのようなテーブル・アンフォラ (TJG2) がある。ウエスト・スロープ様式とは薄手の土器に白色で植物や幾何学模様を描くもので、1890年代にアテネのアクロポリス西方にある丘の西斜面、アレオパゴスで多く発見されたことにちなんでこのように呼ばれる。肩部から頸部中程に1対の把手を有するが、その頸部中程の装着部分を突帯が巡る。口縁部は外反、もしくは水平に外側へ張り出し、しばしばその上部に刻目目が施される。ドールやアナファでは前期ヘレニズム時代から前2世紀末の層から出土している。また、注口を設けたオイノコエ (Oinochoē) や (TJG3), 細長い頸部を特徴とするラギノス (Λάγνος) もある (TJG5)。

エン・ゲヴのH地区ではJG8の口縁部の断片が出土している (1,2: Ⅰ層)。また、頸部の形状からテーブル・アンフォラ (TJG) と思われる断片が1点出土している (3: Ⅱb層)。また袋形の水差しではJG1 (6: Ⅱa層, 11~13: Ⅲa1層), JG2 (5: Ⅰ層, 10: Ⅱb層), JG3 (8.9: Ⅱa層), JG5 (4: Ⅰ層) がある。また、フラスコの断片と思われる口縁部と頸部も数点見られる (14~16: Ⅲa2層)。

iii) 小瓶など (図9)

小瓶は一般的には平らな底とやや長い胴部を有するもの (JGT1) と丸い底部と胴部を持つもの (JGT2) に分類することができる。小瓶は前期ペルシア時代から連続し、特に

厚底のものはアッシリア起源であるとも言われる。また、これがヘレニズム時代の平らな厚底を有するウンゲントリウム (Unguentarium) と呼ばれる香油瓶に発展するとも考えられている。小瓶は主に前期ヘレニズム時代、丸い胴部を有するものは後期ヘレニズム時代～ローマ時代、特に前200年頃を中心に見られる。

ウンゲントリウムは狭い口と長い頸部、わずかに膨らむ胴部、植物の茎にも似た厚底を持つ紡錘形 (JGT3: パレスティナでは前4世紀半ば～前2世紀) と平底を有する西洋梨形 (JGT4: パレスティナでは前1世紀～ローマ時代) に分類することができる。

H地区からはJGT3 もしくはJGT4 のいずれかと思われる底部の破片が出土している (4: I層, 5,6: IIa層)。また、口縁部から頸部にかけて一對の把手がつくアンフォリスコスの断片と思われるものも出土している (1: I層, 2: IIa層)。外反する口縁部とやや狭い頸部の断片 (3: IIIa2層)、そしてリング状の底部と薄手の胴部の断片 (7,8: IIIa1層) はペルシア時代に遡るものかもしれない。

iv) クラテル (図9)

古代ギリシア世界では葡萄酒と水を混酒器で混ぜ、これをオイノコエ (Οἰνοχόη) と呼ばれる片手付きの水差しに移し替えた後、飲酒用のカップに注いで飲んだ。クラテルの語源は「混ぜる器」で、酒を水で割るための混酒器である。食卓などに据え置いても用いるため、十分な容量を持つ胴部としっかりした底部を備えていた。また薄めた酒は柄杓でオイノコエに移し替えるため、中の様子がしっかりと見えて酌み出しやすいように大きな開口部を有する。精製土器と粗製土器があるが、エン・ゲヴでは精製土器は出土していないので、ここでは粗製土器についてのみ記す。ヘレニズム時代のクラテルとしては、大型で胴部は外反し、頸部が短く口縁部が外反するもの (KR1: ドールでは前3世紀末～前2世紀始)、出土事例は少ないが (Guz-Zilberstein, 297) 頸部が無く胴部と口縁部が外反するもの (KR2: 前3世紀～前2世紀)、銅部が垂直に立ちあがり口縁部が水平に張り出すもの (KR3) (ドールでは前4世紀末～前3世紀) がある。また、小型のものもある。

エン・ゲヴのH地区ではいずれも断片だが、KR3が3点出土している (2,3: IIb層, 4: IIIa2層)。また内側と外側に帯状の彩色を施したものも見られる (1: IIa層)。

v) アンフォラ (図10)

ロードス・アンフォラの頸部と把手の一部が1点出土している (1: IIIa層)。把手の上部には刻印が見られるが、それらはギリシア文字で ΠΑΥΣΑΝΙΑ「パウサニア」というエポニム (eponym) (製作者名) を記したものである。モノコフ S.J. Monachov の研究

(Monachov 2005)によると、前230年～前220年に、ドールの事例もやはり前240年頃(ピリオド1からピリオド2への移行期)に年代付けられている(Rosenthal-Heginbottom, 191-66)。また、サマリアでも出土している(Crawfoot 1957, 383)

4. その他の土器

i) オイルランプ (図10)

ペルシア時代のものは前3千年紀からパレスティナで出土する皿状のオイルランプの最終段階に相当する。ヘレニズム時代になると、皿状ではなく小型で丸みを帯びた胴部と細長い火口を持つものに変化する。これらは主に黒色のスリップを施したアッティカ産のもの(OL2)、イルカのひれに似ているためにデルフィニフォーム(Delphiniform)と呼ばれるもの(OL3)、型取りで作られたもの(OL4)に分類することができる。OL2は精良でピンク色がかった胎土を用い、美しい艶のある黒色のスリップがかかる。厚みのある底部に僅かな凹みがあり、その部分の内側がふくらむ。口に丸く縁取りがある。パレスティナでは前4世紀後半から前3世紀に出土する。OL3はパレスティナで前3世紀後半に初めて出現し、ヘレニズム時代で最も一般的な地元産のランプとなる。胴部は轆轤作りで火口は手びねりで胴部の横に穴を開けて付ける。こうした製法のため火口だけの出土例が多く見られる。平らな底に若干の凹みが見られることがある。口に丸く縁取りが施される。スリップがかかることはあるが、それ以外の装飾は無い。OL4は文字通り胴部の表面に型取りで文様を施したものである。スリップがかかっていることが多く、メガリアン・ボールとの製法の共通性から地元産ではなくて輸入品と考えられている。OL4も前3世紀後半に見られる。

H地区からは地元産のOL3の火口の断片と(1: IIb層)胴部の油差口の断片(2: IIb層)が出土している。

ii) 器種不明 (図10)

器種が不明であるが、調理したり、調理後の食べ物を暖かく保っておくための移動式の道具である火桶かもしれない(1: IIb層)。

III. エン・ゲヴ遺跡H地区のヘレニズム土器の性格

土器の出土状況をまとめると、第IIIa層～第IIb層ではペルシア時代から前期ヘレニズム時代の、第IIa層では前期ヘレニズム時代から後期ヘレニズム時代への移行期の、第I層では後期ヘレニズム時代の土器がそれぞれ検出されていることがわかる。これらには前1世紀以後のタイプが見受けられないことから、第I層の終末は後期ヘレニズム

時代の半ばで、これ以後のハスモン朝時代の土器は出土していないと思われる。全体としてはヘレニズム時代の半ば、前200年頃に型式的な画期が見受けられ、前期ヘレニズム時代と後期ヘレニズム時代の文化的背景が異なることを示している。これに対し、ペルシア時代と前期ヘレニズム時代は比較的連続性が見られる。ただし、前述のように、第Ⅱ層、第Ⅲ層については後代からの混入の可能性も否めないため、実際に型式的変遷を示すものかどうかについては今後の調査の進展を待ち、今回はあくまでも私見としてとどめたい。

今回の新たな発掘成果は、ペルシア時代～ヘレニズム時代のキネレト地域の文化を考えるうえで重要な比較資料になると考えられる。

注

- (1) 発掘調査は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)と慶応義塾大学次世代プロジェクト推進プログラムの協力を得、慶応義塾大学文学部杉本智俊教授の指揮のもとに行なわれた。筆者は2009年、2010年調査についてペルシア～ヘレニズム時代に土器に関する報告を担当している。2009年調査の全体と下層の土器の概要については(杉本・間舎 2010)を参照されたい。なお、本研究の遂行と本稿の執筆にあたって鎌倉女子大学と財団法人三菱財団の協力を得た。また、元図と観察表のデータ作成については慶応義塾大学大学院の間舎裕生さんと三戸芽さんの協力を得た。

参考文献

- Amiran, R. 1969: *Ancient Pottery of the Holy Land. From its Beginnings in Neolithic Period to the End of the Iron Age*, Jerusalem: Massada Press.
- Arav, R. & R. A. Freund (eds.) 1995: *Beth Saida*. Vol. 1, Kirksville: Thomas Jefferson University Press.
- Arav, R. & R. A. Freund (eds.) 1999: *Beth Saida*. Vol. 2, Kirksville: Thomas Jefferson University Press.
- Bennett, W. J. & J. A. Blakely (eds.) 1989: *Tell El-Hesi. The Persian Period (Stratum V)*, Winona Lake: Eisenbrauns.
- Blakely, J. A. & W. J. Bennett 1989: "Levantine Mortariae of the Persian Period," in J. A. Blakely & W. J. Bennett (eds.), *Analysis and Publication of Ceramics: The Computer Database in Archaeology* (BAR. International Series, 551), Oxford: BAR, 45-65.
- Berlin, A. 1994: "The Plain Wares," in Herbert 1994, 1-246.
- Clark, A. J. *et al.* 2002: *Understanding Greek Vases*, Los Angeles: The J. Paul Getty Museum.
- Crawfoot, J. W. *et al.* 1957: *The Objects from Samaria*, London: Palestine Exploration Fund.
- Dever, W. G. *et al.* 1970, 1974: *Gezer I, II*, Jerusalem: Hebrew Union College Biblical and Archaeological School in Jerusalem.

- Edwards, G. R. 1975: *Corinthian Hellenistic Pottery* (Corinth Vol. VII, Part. III), Princeton: The American School of Classical Studies at Athens.
- Fisher, M. 1989: "Hellenistic Pottery (Strata V-III)," in Herzog, Z. *et al.* 1989, 177-187.
- Guz-Zilberstein, B. 1995: "The Typology of the Hellenistic Coarse Ware and Selected Loci of the Hellenistic and Roman Periods," in Stern 1995 IB, 289-433.
- Gunneweg, J. *et al.* 1983: *The Provenience, Typology, and Chronology of Eastern Terra Sigillata* (Qedem, 17), Jerusalem: Israel Exploration Society.
- Hannestad, L. 1983: *The Hellenistic Pottery from Failaka, with a Survey of Hellenistic Pottery in the Near East*, Aarhus: Jutland Archaeological Society Publications.
- Herbert, S. C. (ed.) 1994: *Tel Anafa, I, i: A Hellenistic & Roman Settlement*, Ann Arbor: Kelsey Museum of the University of Michigan.
- Herzog, Z. *et al.* (eds.) 1989: Z. Herzog, G. Rapp, Jr, & Negbi, O (eds.), *Excavation at Tel Michal, Israel*, Tel Aviv: Tel Aviv University.
- Jones, F. F. 1950: "The Pottery," in H. Goldman (ed.), *Excavations at Gozlu Kule, Tarsus, I: The Hellenistic and Roman Periods*, Princeton: Princeton University Press.
- Kloner, A. 2003: *Maresha Excavations Final Report I*, Jerusalem: Israel Antiquities Authority.
- Lapp, N. L. 2008: *Shechem IV. The Persian-Hellenistic Pottery of Shechem/Tell Balatah*, Boston: The American Schools of Oriental Research.
- Lapp, P. W. 1961: *Palestinian Ceramic Chronology. 200 B. C.-A. D. 70*, New Haven: American Schools of Oriental Research.
- Lapp, P. W. (ed.) 1968: *The 1957 Excavation at Beth-Zur*, Cambridge MA: American Schools of Oriental Research.
- Laumonier, A. 1977: *La céramique hellénistique à reliefs, 1: Ateliers 'Ioniens'* (Exploration archéologique de Délos faite par l'École française d'Athènes, 31), Athènes: École Française d'Athènes.
- Makino, K. forthcoming: "Hellenistic Pottery from Tel 'En Gev," in A. Tsukimoto & H. Kuwabara (eds.), *Excavations at Tel 'Ein Gev: Seasons 1990-2004*.
- Mazar, B. *et al.* 1964: "'En Gev. Excavations in 1961," *Israel Exploration Journal* 14, 1-49.
- Monachov, S. J. 2005: "Developments in Form and Measurement," in V. F. Stolba & L. Hannestad. (eds.), *Chronologies of the Black Sea Area in the Period C 400-100 BC.*, Copenhagen: Aarhus University Press, 69-95.
- Roll, I. & O. Tal, (eds.) 1999: *Apollonia-Arsuf. Final Report of the Excavations. Volume 1: The Persian and Hellenistic Periods* (Tel Aviv University. Sonia and Marco Nadler Institute of Archaeology. Monograph Series, 16), Tel Aviv: Tel Aviv University.
- Rosenthal-Heginbottom, R. 1995: "Imported Hellenistic and Roman Pottery," in Stern 1995 IA, 183-287.
- Rotroff, S. I. 1982: *Hellenistic Pottery, Athenian and Imported Moldmade Bowls*. (The

- Athenian Agora Vol. XXII), Princeton: The American School of Classical Studies at Athens.
- Rotroff, S. I. 2006: *Hellenistic Pottery. The Plain Wares*. (The Athenian Agora Vol. XXXIII), Princeton: The American School of Classical Studies at Athens.
- Singer-Avitz, L. 1989: "Local Pottery of the Persian Period (Strata XI-VI)," in Herzog *et al.* 1989, 115-144.
- Slane, K. W. 1994: "The Fine Wares," in Herbert 1994, 255-416.
- Stern, E. 1982: *Material Culture of the Land of the Bible in the Persian Period 538-332 B. C.*, Wiltshire: Aris & Phollips, Jerusalem: Israel Exploration Society.
- Stern, E. (ed.) 1995: *Excavation at Dor, Final Report*. Volume IA: *Areas A and C: Introduction and Stratigraphy*/Volume IB: *Areas A and C: The Finds* (Qedem Reports, 2), Jerusalem: The Israel Exploration Society.
- Waage, F. O. 1934: "Pottery," in G. W. Elderkin (ed.), *Antioch on the Orontes I: The Excavations of 1932*, Princeton: Princeton University Press. 67-73.
- Yannai, E. 2009: "Excavations at Or 'Aqiva (North)," in *'Atiqot* 61, 51-73
- 杉本智俊, 間舎裕生 2010: 「二〇〇九年度エン・ゲヴ遺跡 (イスラエル) における発掘調査」『史学』79-1/2, 87-114.
- 杉本智俊, 間舎裕生 2011: 「二〇一〇年度エン・ゲヴ遺跡 (イスラエル) における発掘調査」『史学』80-1, 71-90.
- 月本昭男他 (編) 2009: 『エン・ゲヴ遺跡』, リトン.

図1 エン・ゲヴ遺跡の位置

図2 2009年度発掘調査
(杉本・間舎提供)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼 成
						内側	外側	断面			
1	表土	D10	502	5003	IB3	2.5YR6/4	2.5YR6/4	7.5YR7/4	—	白色粒子、レキの抜けたあとがある	良好
2	I	C9	516	5029-1	IB3	2.5YR5/8	2.5YR5/8	7.5YR7/4	内側・外側	—	良好
3	IIa	D10	510	5021-2	IB3	2.5YR4/8	2.5YR4/8	5YR7/6	内側・外側	微細な粒子	良好
4	IIa	C10	507	5020-2	IB3	10.5YR4/1	10.5YR4/1	7.5YR7/4	内側・外側	—	良好
5	IIa	D10	517	5036-2	IB3	5Y2/1	5Y2/1	5Y7/6	内側・外側	—	良好
6	IIa	C10	525	5058-16	IB3	7.5YR3/4	7.5YR3/3	7.5YR7/6	内側・外側	—	良好
7	IIb	D10	526	5059	IB3	10R5/8	10R5/8	5YR7/6	内面・外面	—	極めて良好
8	IIa	D10	517	5036-3	IB4	5YR7/6	10YR8/3	10YR8/2	外側	黒色粒子を多く含む	良好
9	IIa	C10	525	5058-14	IB4	5YR4/1	5YR4/8	5YR8/3	内面	白色粒子	良好
10	IIb	D10	519	5057-1	IB3	10YR3/1	10YR3/1	10YR7/3	—	白色粒子	良好
11	IIb	D10	527	5061-10	IB3	5YR4/1	5YR3/3	10YR8/3	内面・外面	黒色粒子を含む	良好
12	IIIa2	D10	528	5090-19	IB3	2.5YR5/6	2.5YR5/6	5YR7/6	—	白色粒子を含む	良好
13	IIIa2	D10	528	5066-1	IB3	5YR4/6	5YR4/6	5YR5/1	外側・内側	白色粒子を含む。うっすらとブラックコアあり	良好
14	IIb	C10	514	5030-7	SB	10YR2/1	10YR3/1	10YR7/4	内側・外側	白色粒子を含む	良好
15	IIb	D10	519	5040-5	OB	10YR3/1	10YR3/1	7.5YR7/4	外側・内側	—	極めて良好
16	IIb	D10	519	5057-2	FB	2.5YR6/6	7.5YR7/4	10YR6/2	—	砂粒、白色粒子を多く含む	普通
17	IIb	D10	527	5061-5,9	FB	7.5YR8/3	7.5YR7/3	7.5YR8/3	—	白色粒子を含む。うっすらとブラックコアあり	悪い

鉢

図3 エン・ゲヴ出土土器(1)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	IIa	C10	507	5020-5	FP2or 4	—	—	—	—	—	
2	IIa	D10	521	5052-1	FP2or 4	—	—	—	—	—	
3	IIa	D10	515	5032-1	FP3?	7.5YR3/2	7.5YR3/2	7.5YR7/4	—	赤褐色の大きい粒子、砂粒	良好
4	IIa	D10	524	5056-2	FP2or 4	2.5YR4/4	2.5YR4/4	10YR7/4	内面・外面 +研磨	—	良好
5	IIb	D10	520	5039-1	FP2or 4	2.5YR5/8	2.5YR5/8	5YR6/6	—	白色粒子、黒色粒子を含む	良好
6	IIb	D10	514	5028-1	FP5?	7.5YR2/1	7.5YR2/1	7.5YR3/2	—	微細な白色粒子を含む	極めて良い
7	IIIa1	D10	533	5074-4	FP2or 4	2.5YR5/6	2.5YR5/6	10YR7/3	外側・内側	大きめの白色粒子と黒色粒子を含む	良好
8	IIIa2	D10	528	5090-2	FP2or 4	2.5YR6/6	2.5YR6/6	7.5YR7/4	外側・内側	白色粒子、砂粒を含む	良好
9	IIIa2	D10	528	5092-1	FP4	5YR3/3	5YR4/3	7.5YR8/4	内側・外側	白色粒子を含む	良好
10	IIIa2	C10	536	5098	FP4	5YR6/4	5YR7/4	5YR6/4	—	白色粒子を含む。混和材あり	良好
11	IIa	C10	525	5058-11	FP4?	2.5YR5/6	5YR6/4	5YR6/4	内側	黒色粒子を多く含む。ブラックコアあり	やや良好
12	IIa	C10	525	5058-15	FP4?	7.5YR6/8	10YR8/3	10YR8/2	内面	—	良好
13	IIa	D10	515	5032-5	FP2	2.5YR4/6	2.5YR4/6	2.5YR4/6	—	—	良好
14	IIIa1	C10	537	5082	FP2	2.5YR7/6	2.5YR5/6	5YR5/6	内面・外面	白色粒子、黒色粒子を含む。外は高台の中ほどまでスリップがかかっているが、高台と底は色なし	良好
15	IIIa2	D10	528	5090-11	FP2	5YR3/6	10YR7/4	5YR6/4	—	白色粒子	普通

フレッシュ・プレート
図4 エン・ゲヴ出土土器(2)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼 成
						内側	外側	断面			
1	表土	C9	512	5023-2	卵織模様	5YR3/6	5YR1.7/1	10YR7/4	—	—	良好
2	IIb	C10	514	5030-10	棕櫚の葉	2.5YR4/6	5YR3/2	7.5YR7/4	—	—	良好
3	IIb	C10	514	5030-11	棕櫚の葉	2.5YR3/4	2.5YR4/3	5YR7/6	—	—	良好

メガリアン・ボール

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼 成
						内側	外側	断面			
1	表土	C9	512	5023-1	MOR2	7.5YR5/3	7.5YR6/4	10YR6/4	—	白色, 黒色粒子, ところどころに小さな気泡	良好
2	IIa	C10	525	5058-12,13	MOR2	5YR4/1	7.5YR2/3	7.5Y2/1	—	白色粒子を含む。ブラックコア	悪い
3	IIb	D10	520	5039-2	MOR2	10YR6/3	10YR7/3	10YR5/2	—	砂粒, 白色粒子, 黄土色の塊を含む	良好
4	IIIa1	D10	533	5074-1	MOR2	7.5YR7/4	5YR7/6	10YR7/3	—	白色粒子, 黒色粒子を含む	普通
5	IIIa2	D10	528	5092-2	MOR3	5YR6/6	5YR7/6	7.5YR2/1	—	白色粒子を含む	悪い
6	IIa	D10	517	5031-2	底部?	5YR7/4	10YR8/4	10YR8/4	—	黒色粒子, 砂粒, 白色粒子を含む	普通

モルタリア

図5 エン・ゲヴ出土土器(3)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	I	C10	503	5006-2	CP1	5YR5/4	5YR5/6	5YR5/4	—	白色粒子（大・小）を含む	良好
2	IIa	D10	511	5016-8	CP1	5YR3/4	5YR3/4	5YR3/4	—	砂粒大の気泡がところどころに見られる	良好
3	IIa	D10	517	5031-4	CP1	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	—	—	良好
4	I	C9	516	5042-2	CP3	2.5YR4/4	2.5YR4/4	2.5YR4/4	—	白色粒子を含む	良好
5	IIb	D10	527	5061-6	CP3	2.5YR4/1	2.5YR2/2	2.5YR4/1	—	白色粒子を含む	良好
6	IIb	D10	519	5040-6	CP3	2.5YR2/1	2.5YR4/6	7.5YR4/1	—	白色粒子を少量含む	良好
7	IIb	D10	527	5061-8	CP2	2.5YR3/6	2.5YR4/8	2.5YR4/4	—	白色粒子含む	良好
8	IIIa1	D10	532	5072-2	CP2	2.5YR5/6	2.5YR5/6	2.5YR5/6	—	白色粒子を含む	良好
9	IIIa2	D10	528	5090-4	CP2	2.5YR5/6	2.5YR4/4	2.5YR5/6	—	白色粒子を含む	良好

クッキング・ポット

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	I	C9	516	5053	CPL 1	2.5YR5/4	2.5YR4/4	2.5YR5/1	—	白色粒子，黒色粒子，レキを含む	良好
2	IIa	D10	515	5032-4	CPL 2?	5YR4/6	5YR4/6	5YR4/6	—	—	良好
3	IIa	D10	524	5056-1	蓋	N5/0	N3/0	N3/0	—	黒色粒子を多く含む	良好
4	IIb	D10	514	5028-2	蓋	7.5YR7/6	7.5YR7/4	2.5YR6/6	—	白色粒子と黒色粒子を多く含む	良好

クッキング・ポット

図 6 エン・ゲヴ出土土器（４）

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	I	C9	516	5029-3	JR2	7.5YR8/6	7.5YR8/6	7.5YR8/6	—	白色、黒色粒子・1.5mm 程度の褐色粒子	普通
2	IIa	D10	511	5016-3	JR2	10YR7/3	10YR7/3	10YR7/3	—	—	良好
3	IIa	C10	525	5058-4,6,7,8,10	JR2	2.5Y8/2	10YR8/3	2.5Y8/3	—	黒色粒子、白色粒子。	普通
4	IIa	D10	511	5016-5	JR2	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/4	—	白色、黒色粒子を含む	普通
5	IIa	D10	517	5036-1	JR2	2.5YR5/6	10YR8/4	7.5YR7/2	—	黒色粒子、白色粒子	良好
6	IIa	C10	507	5020-6	JR2	10YR7/3	10YR8/2	10YR7/4	—	—	普通
7	IIa	C10	523	5055-2	JR2	2.5Y6/1	2.5Y7/2	5Y5/1	—	折り返し口縁、黒色粒子を含む	良好
8	IIa	D10	517	5036-5	JR2	10YR7/4	10YR7/3	10YR7/3	—	黒色粒子、褐色粒子を含む	普通
9	IIa	C10	507	5020-3	JR2	10YR8/3	5YR7/4	5YR7/4	—	白色粒子を含む	良好
10	IIa	C10	525	5058-1	JR2	7.5YR7/4	7.5YR8/6	7.5YR5/4	—	微細な白色粒子を含む。	やや良好
11	IIa	D10	524	5056-3	JR2	10YR7/4	10YR8/4	10YR5/1	—	黒色粒子を含む。ブラックコアあり	良好
12	IIa	D10	517	5036-4	JR3	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	—	黒色粒子、白色粒子、褐色粒子を含む	良好
13	IIa	C10	507	5020-1	JR3	10.5YR8/4	10.5YR8/4	10.5YR7/4	—	白色、黒色粒子を含む	良好
14	IIb	C10	514	5030-6	JR3	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	—	白色粒子、黒色粒子、砂粒、小さな気泡含む	良好
15	IIb	D10	527	5061-7	JR3	7.5YR8/4	7.5YR7/4	10YR7/3	—	2-3mm の小石を含む。混和材を含む。口縁部1/6程度残存	良好
16	IIb	D10	519	5040-4	JR 1	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	—	黒色、白色、褐色粒子を含む	良好
17	IIb	C10	514	5030-2	JR 1	7.5YR7/4	7.5YR7/3	7.5YR7/3	—	白色粒子、褐色の大きい粒子を含む	良好
18	IIIa1	D10	530	5087	JR 1	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	—	砂粒、白色粒子、黒色粒子を含む	良好
19	IIIa2	D10	528	5092-9	JR 1	10YR8/4	10YR8/3	10YR8/3	—	黒色粒子を含む、混和材あり	良好

貯蔵壺

図7 エン・ゲウ出土土器（5）

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼 成
						内側	外側	断面			
1	I	C9	516	5042-1	JG8	10YR8/3	10YR8/3	10YR8/3	—	白色粒子を多く含む	良好
2	I	C10	505	5012-3	JG8	10YR8/4	10YR8/4	10YR7/3	—	白色粒子、黒色粒子を少量含む。	良好
3	IIb	D10	527	5061-11,12	TJG2	5YR2/1	5YR3/1	5YR2/1	内面・外面(黒)	白色粒子を含む	良好
4	I	D10	504	5010-1	JG 5	5YR6/8	5YR6/6	5YR6/6	—	白色粒子(大・小)、褐色粒子、砂粒、泥岩のやや大きい粒	普通
5	I	C10	503	5006-1	JG2	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	—	白色微粒子、黒色日粒子を多く含む。	良好
6	IIa	D10	510	5021-1	JG1	5YR7/6	5YR7/6	5YR7/4	—	—	良好
7	IIa	C10	523	5055-1	TJG	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/4	—	—	良好
8	IIa	D10	517	5031-3	JG3	5YR6/6	5YR4/1	5YR4/1	—	—	
9	IIa	C10	523	5055-3	JG3	7.5YR7/4	2.5YR7/6	7.5YR5/1	—	赤褐色の粒子を多く含む。内面にへう削りの痕がみられる	良好
10	IIb	C10	514	5030-4	JG2	10YR7/3	10YR7/4	10YR7/3	—	白色粒子、黒色粒子、褐色粒子、砂粒を多く含む	良好
11	IIIa1	D10	533	5074-3	JG1	5YR7/4	5YR7/6	5YR7/4	—	白色粒子、黒色粒子を含む	良好
12	IIIa1	D10	533	5074-5	JG1	5YR6/4	5YR6/4	5YR5/4	—	白色粒子、褐色粒子、黒色粒子を含む	良好
13	IIIa1	D10	533	5074-2	JG1	5YR6/6	5YR6/6	10YR7/3	—	白色粒子を多く含む。黒色粒子を含む	普通
14	IIb	D10	527	5061-1	TJG1	5YR7/4	5YR7/6	5YR6/6	—	白色粒子、褐色粒子を含む。折り返し口縁	普通
15	IIIa2	D10	528	5092-4	TJG1	10YR8/6	10YR8/4	10YR6/1	—	褐色粒子を含む。折り返し口縁	良好
16	IIIa2	D10	528	5092-5	TJG1	7.5YR7/6	10YR8/3	5YR7/6	—	微細な褐色粒子を含む。折り返し口縁	良好
17	IIIa2	D10	528	5092-6	TJG1	5YR7/6	7.5YR6/4	5YR5/1	—	1mm程度の白色粒子、ブラックコアがわずかにある	普通
18	IIa	D10	510	5015	底部	2.5YR4/6	2.5YR4/8	10YR8/4	内側	微細な粒子	極めて良い

水差し

図8 エン・ゲヴ出土土器(6)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	I	C9	516	5029-2	JGT	7.5YR8/4	7.5YR8/4	5YR7/8	—	黒色粒子、白色粒子、褐色粒子を含む	普通
2	IIa	D10	511	5016-6	JGT1?	7.5YR8/4	7.5YR8/4	7.5YR7/6	—	黒色粒子を多く含む	良好
3	IIIa2	D10	528	5092-8	JGT1	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR7/2	—	—	良好
4	I	D10	504	5010-2	底部	10YR8/4	2.5YR6/6	2.5YR6/6	—	—	良好
5	IIa	D10	511	5016-2	底部	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	—	—	良好
6	IIa	D10	515	5032-2	底部	—	—	—	—	—	良好
7	IIIa1	D10	532	5072-1	底部	7.5YR7/4	5YR7/4	5YR6/4	—	白色粒子、黒色粒子を含む	良好
8	IIIa2	D10	528	5092-7	底部	7.5YR6/4	7.5YR7/4	7.5YR6/4	—	微細な黒色粒子を含む	良好

小瓶など

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色調			スリップ	粒子	焼成
						内側	外側	断面			
1	IIa	D10	511	5016-4		5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	内側・外側 (帯状に彩色)	—	良好
2	IIb	D10	527	5061-3	KR3	5YR5/6	5YR5/6	5YR6/6	内面・外面	1.2 mm 程度の白色粒子	良好
3	IIb	D10	527	5061-4	KR3	2.5YR5/4	2.5YR5/4	2.5YR6/6	内面・外面	白色粒子を含む。口縁部 外面のスリップがはがれている	良好
4	IIIa2	D10	528	5064-3	KR3	2.5YR5/6	7.5R4/2	10YR7/2	—	—	良好

クラテル

図9 エン・ゲヴ出土土器(7)

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色 調			スリップ	粒 子	焼成
						内側	外側	断面			
1	IIIa2	D10	528	5110		2.5YR7/8	7.5YR8/6	2.5YR6/8	—	赤褐色粒子, 黒色粒子を含む	極めて良好

アンフォラ

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット	タイプ	色調			スリップ	粒子	焼成
						内側	外側	断面			
1	IIb	D10	519	5040-1	OL3	10YR8/4	10YR8/4	10YR8/4	—	—	良好
2	IIb	C10	514	5030-9	OL3	—	—	—	—	—

番号	層	グリッド	ローカス	バスケット
1	IIb	C10	514	5038-6

オイルランプ

器種不明

図10 エン・ゲヴ出土土器 (8)